



# ノキテンエースセラ<sup>®</sup>

シリコン系塗膜で耐汚染性とコンクリートの  
中性化抑制効果を発揮する高耐久の軒天専用塗料

防火材料認定番号	品目名	ホルムアルデヒド 放 散 等 級 F☆☆☆☆
NM-8585	塗料塗装/不燃材料	
QM-9816	塗料塗装/準不燃材料	
RM-9364	塗料塗装/難燃材料	

※平滑仕上げのみ対象

## ■特長

### ① 省工程

改修塗装時に旧塗膜が活膜の場合には、シーラー塗装工程が不要で、上塗り塗料を直接塗装することが可能です。(※1)

※1 旧塗膜が活膜の場合に限ります。劣化が進行し、表面が粉化している場合や吸込みが著しい場合には、水性カチオンシーラーを必ずご使用ください。

### ② 耐汚染性

雨水が直接触れることの少ない軒天環境を考慮し、粉じん等の付着しにくい塗膜を実現。塗膜汚染低減に貢献します。

写真: 乾式粉じん付着試験結果



当社一般塗料      ノキテンエースセラ

#### 試験方法

4L缶内に塗板を張り付け、粉じん(関東ローム)を入れてミキサーでかくはん。  
かくはん後、塗板表面の粉じんをエアードで除去し、汚染の度合いを比較。

### ③ 中性化抑制効果

高い中性化抑制能力で、コンクリートの長寿命化に貢献します。

### ④ 高耐久性

シリコン系塗膜なので高い耐久性、下地への付着性があり、優れた耐久性を発揮します。

### ⑤ 厚膜性

ローラーでの厚膜仕上げが可能なおから、旧塗膜はく離箇所等の不陸を緩和します。(※2)

※2 素地が露出している場合には、水性カチオンシーラーを必ずご使用ください。

### ⑥ 透湿性

シリコン系塗膜により従来品に比べ透湿性が向上。背面からの水分の影響を緩和し、膨れやはく離を抑制します。

### ⑦ 微弾性

微弾性塗膜ですので、下地のヘアクラックに追従します。

### ⑧ 防藻・防かび性

藻やかびの発生を抑制し、建物の美観を維持します。

## ■用途

戸建住宅・マンションなどの軒天井・上裏など

## ■適用下地

新設適用下地: コンクリート・モルタル・スレート板  
けい酸カルシウム板などの各種素材

⑨ 新設適用時は、下地に応じたシーラーをご使用ください。

改修適用下地: 上記各種素材面のアクリルリシン・  
合成樹脂エマルジョンペイント・その他各種旧塗膜

## ■標準塗装仕様

### 【改修塗装仕様】

工程	塗料名		塗り回数	使用量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	活膜を残し劣化塗膜は入念に除去する。粉化物、ほこり、よごれを除去し、乾燥した清浄な面とする。							
上塗り	ノキテンエースセラ	平滑仕上げの場合	2	0.30~0.40	2時間以上	水道水	0~2	はけ、ウールローラー
		ゆず肌(ライトウェーブ)模様仕上げの場合	1~2※	0.60~1.00				砂骨ローラー(細目)

### 【新設塗装仕様】

工程	塗料名		塗り回数	使用量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	ごみ、未硬化セメント粉末、砂じん、油脂などの付着物をワイヤーブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。(含水率10%以下、pH9以下)							
下塗り	水性カチオンシーラー(ホワイト・透明)		1	0.10~0.16	4時間以上	水道水	ホワイト 0~10 透明 無希釈	はけ、ウールローラー
				0.12~0.16				エアレススプレー
上塗り	ノキテンエースセラ	平滑仕上げの場合	2	0.30~0.40	2時間以上	水道水	0~2	はけ、ウールローラー
		ゆず肌(ライトウェーブ)模様仕上げの場合	1~2※	0.60~1.00				砂骨ローラー(細目)

★上記の各数値はすべて標準のもので、被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

★塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間を守ってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

★防火認定は平滑仕上げのみ対象となります。

※ゆず肌(ライトウェーブ)模様の上塗りは、下地が充分隠れない場合は2回塗りとなります。

## ■塗装基準

仕上げ	平滑	ゆず肌(ライトウェーブ)模様
塗装方法	はけ、ウールローラー塗り	砂骨ローラー(細目)塗り
希釈率	0~2%	0~2%
使用量	0.30~0.40kg/m <sup>2</sup> /回	0.60~1.00kg/m <sup>2</sup> /回
1缶あたりの塗装面積	25~33m <sup>2</sup> /回	20~33m <sup>2</sup> /回

★はけ、ウールローラーでの塗付け量は、0.20~0.25kg/m<sup>2</sup>/回(2回塗仕上げ)です。 ★使用量:被塗装面単位面積あたりの塗装材料(希釈する前)の使用質量  
★砂骨ローラー(細目)での塗付け量は、0.50~0.80kg/m<sup>2</sup>/回(1回塗仕上げ)です。 ★塗付け量:被塗装面単位面積あたりの塗装材料(希釈する前)の付着質量

## ■塗り重ね乾燥時間

	5~10℃	23℃	30℃
塗り重ね乾燥	5時間以上	2時間以上	1時間以上

※乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

## ■容量・荷姿

塗料名	系統	容量	色相	つや
ノキテンエースセラ	水性反応硬化形軒天専用シリコン系塗料	20kg	各色	つや消し

## ■塗料・塗膜性能

試験項目	規格	性能
容器の中での状態	かき混ぜたとき、堅い塊がなく一様になるものとする。	合格
塗装作業性	2回塗りで、塗装作業に支障があってはならない。	合格
低温安定性(-5℃)	変質してはならない。	合格
乾燥時間(h)	標準状態:2以下 5℃:4以下	合格
塗膜の外観	塗膜の外観が正常であるものとする。	合格
耐水性	96時間浸したとき異常がないものとする。	合格
耐アルカリ性	48時間浸したとき異常がないものとする。	合格
耐洗浄性	500回の洗浄に耐えるものとする。	合格
促進耐候性	白亜化の等級は1以下で、膨れ、はがれ及び割れがなく、色の变化の程度が見本品に比べて大きくないものとする。	合格
屋外暴露耐候性	12か月間の試験で塗膜に膨れ、はがれ及び割れがなく、色の变化と白亜化の程度が見本品に比べて大きくないものとする。	合格

※上記結果は、JIS K 5663に基づき弊社社内試験による。

## ■施工上の要点と注意事項 (詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください。)

1. 濡れやすい建材(軽質モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など)を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗ると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄りの営業所などにご相談ください。
2. 防露・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
3. 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
4. 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、黄色い粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
5. 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
6. 色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
7. 乾燥後に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
8. 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じる場合がありますが、時間とともになくなります。
9. 反応硬化タイプの塗料の使用後ははけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まったらラックシンナーで洗浄してください。
10. 動物はけは、はけが固まったりタマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
11. 塗膜に割れが生じるおそれがあるため、乾かし塗膜の上への塗装は避けてください。
12. つや有り仕上げを塗り替える場合、種類によっては適性がない場合がありますので、試し塗りをから本施工してください。
13. 吸音板塗料を塗り替える場合(シールマット II など)の塗り替えには使用できません。
14. 氷点下で貯蔵すると凍ります。凍らないように5℃以上で貯蔵、保管してください。
15. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着障害をおこすおそれがあります。
16. 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。
17. 旧塗膜の種類が不明の場合は必ず試験施工で適性を確認してください。
18. 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケツト科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケツト科学社製H5000シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。
19. 内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
20. 素材にセメント成分などが使われている場合は、エポキシ樹脂系塗料が発生するおそれがありますので溶剤系シーラーをご使用ください。
21. 新設の押出成形セメント板、GFRF板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
22. 塗装場所の室温が20℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
23. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
24. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分にを行い、火気厳禁にしてください。
25. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
26. シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、取離れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペプライドオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、取離れが起こることがあります。
27. 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
28. 薄めすぎは膨れ力不足、仕上がりに不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
29. 上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で冴え不出来い場合があるため、事前に試験施工し塗り板等でご確認ください。
30. 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような箇所には使用しないこととし、塗り重ね適性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペプライドオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、取離れが起こることがあります。
31. 濃彩色を塗装する際には、つやむらがり立ちやすくなるおそれがありますので、事前に試し塗りをしてご確認の上、ご使用ください。
32. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
33. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌質が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
34. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。
35. 塗装方法により色相が多少変化する場合があるので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
36. 汚れ、さすなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
37. 可塑剤が多く含まれる塩ビ珪藻土、塩ビミネート、プラスチック、ゴムバックン、合成皮革、塩ビクロスなどへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
38. 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷蔵所で保存し、速やかに使い切ってください。
39. 塗料は内容物が均一になるようによくはんとしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かはん機を用いて底層の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
40. 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷蔵所で保存し、速やかに使い切ってください。
41. 旧塗膜が何回も塗り重ねられて層層されている場合、塗膜全体が柔らかくなっている場合があります。この場合、そのまま塗り重ねると塗膜の物性差によって塗膜割れが発生するおそれがありますので、旧塗膜をはく離してから塗装してください。
42. 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
43. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

## ■安全衛生上の注意事項 ニッペ ノキテンエースセラ 白

横倒禁止

1. 本来の用途以外に使用しないでください。
2. 取扱い後は、手洗いおよびうがいを行ってください。
3. 必要時以外には、環境への放出を避けてください。
4. 保護手袋・保護衣・保護眼鏡・保護面を着用してください。
5. 飲み込んだ場合: 気分が悪いときは、医師に連絡してください。口をすすいでください。
6. 容器からこぼれた時には、砂などを散布した後処理してください。
7. 吸入した場合: 気分が悪い時は、医師に連絡してください。
8. 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しづらい姿勢で休息させてください。
9. 眼に入った場合: 水で数分注意深く洗ってください。次に、コンタクトレンズを着用している場合は外して外してください。その後も洗浄を続けてください。
10. 肌の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けてください。
11. 施設して保管してください。
12. 直射日光や水濡れは厳禁です。
13. 容器はつり上げないでください。やむを得ずつり上げる時には、適切なつり具で、垂直に持ち上げ、落下に十分注意してください。(偏荷重になると取っ手が外れ、落下事故の危険があります。)
14. 塗料等の缶の積み重ねは3段までとってください。
15. 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。輸送中も50℃以上(スプレー缶の場合は40℃以上)の温度にばく露しないでください。
16. 内容物/容器を国/地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。

※上記の表示は一例です。色相などにより、容器の表示は異なる場合があります。  
 ※詳細な内容、表示以外の製品については、安全データシート(SDS)をご参照ください。  
 ※本製品は日本国内の使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。



強い眼刺激/水生生物に有害/長期継続的影響によって水生生物に有害

## 日本ペイント株式会社

お客さまセンター  
 ☎ 03-3740-1120  
 ☎ 06-6455-9113

<http://www.nipponpaint.co.jp/>

●このカタログは再生紙を使用しています。

- 本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- ©Copyright 2017 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.

●さらに詳しい情報は、専用Webサイトへアクセス  
<http://www.nipponpaint.co.jp/biz1/building.html>

日本ペイント 建物 検索

カタログNo.

NP-V067

AA171010T  
 2017年10月現在